



NATIONAL
UNIVERSITY
ADMISSION
CENTERS

国立大学アドミッションセンター
連絡会議ニュース

第14号 平成29(2017)年4月

国立大学アドミッションセンター 連絡会議ニュース



会場となった「立命館大学大阪いばらきキャンパスB棟」



田原会長と会議の様子



文部科学省・大学振興課大学入試室 荒木室長補佐

第14回総会を開催

平成28年6月1日（水）13時から、立命館大学大阪いばらきキャンパスB棟（立命館いばらきフューチャープラザ）カンファレンスホールにおいて、国立大学アドミッションセンター連絡会議第14回総会が開催されました。

船橋事務局長（富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター副センター長）より開会の辞があり、田原会長による開会挨拶の後、議事に先立ち、文部科学省高等教育局より来賓としてご臨席の大学振興課大学入試室 荒木室長補佐からご祝辞とご挨拶をいただきました。

議事においては、次第に基づき、新規加盟2機関（「徳島大学総合教育センター」、「鹿児島大学アドミッションセンター」）の承認、会則の改正及び会計報告が行われ、引き続き、大学からの報告として、徳島大学 植野美彦准教授から〔「徳島大学生物資源産業学部の個別選抜改革」―高大接続改革実行プランを受けた多面的・総合的評価の設計と実施―〕について講演していただき、参加者との活発な意見交換が行われました。

最後に、船橋事務局長から挨拶があり、第14回総会を終了しました。

以下は、総会議事要録、植野准教授の講演要旨です。ご覧いただきますようお願いします。

【参考】会計報告

平成27年度国立大学アドミッションセンター連絡会議運営費会計報告

平成27年4月1日～平成28年3月31日

収入の部		支出の部	
	円		円
前年度繰越	861,110	連絡会議ニュース第12号	214,200
会費（加盟24大学）	480,000	第13回総会会場（東京電機大学）・機材等使用料	44,604
		次年度繰越	1,082,306
計	1,341,110	計	1,341,110

国立大学アドミッションセンター連絡会議 第14回総会議事要録

- 1 日 時 平成28年6月1日(水) 13:00～14:30
- 2 場 所 立命館大学大阪いばらきキャンパスB棟(立命館いばらきフューチャープラザ)
カンファレンスホール
- 3 次 第
 - 1 新規加盟機関の承認(案)について
 - 2 会則等の改正(案)について
 - 3 会計報告について
 - 4 その他

開 会

田原会長による開会挨拶により、第14回総会を開始した。

議事に先立ち、文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室 荒木室長補佐から来賓挨拶をいただいた。

議 事

1. 新規加盟機関の承認(案)について
船橋事務局長から、徳島大学総合教育センター及び鹿児島大学アドミッションセンターの2機関から新規加盟の申請があった旨説明があり、審議の結果、加盟が承認された。
2. 会則等の改正(案)について
船橋事務局長から、2機関の新規加盟に加え、加盟機関の名称変更に伴う会則の改正について説明があり、審議の結果、承認された。
3. 会計報告について
船橋事務局長から、資料3に基づき会計報告が行われた。
4. その他
なし

特別レポート

徳島大学 植野美彦准教授から〔「徳島大学生物資源産業学部の個別選抜改革」—高大接続改革実行プランを受けた多面的・総合的評価の設計と実施—〕と題して講演が行われた後、参加者との活発な意見交換が行われた。

なお、今後の入試のあり方などに対して、荒木室長補佐から助言があった。

閉 会

加盟大学からの活動報告

徳島大学

「徳島大学生物資源産業学部の個別選抜改革」

—高大接続改革実行プランを受けた多面的・総合的評価の設計と実施—

植野 美彦（徳島大学総合教育センターアドミッション部門准教授）

国立大学アドミッションセンター連絡会議
第14回総会/活動報告(2016.6.1)

徳島大学生物資源産業学部の個別選抜改革

—高大接続改革実行プランを受けた多面的・総合的評価の設計と実施—

国立大学法人徳島大学
総合教育センターアドミッション部門
植野 美彦

TOKUSHIMA UNIVERSITY

1

本日の内容（30分） ※説明時のスライドNo.は右上の番号で示します。

- 1 生物資源産業学部の概要と多面的・総合的評価を実施した経緯
- 2 生物資源産業学部におけるアドミッション・ポリシー（AP）と入学者選抜方法の設計について
- 3 アドミッション機能を中心とした評価者の育成と評価方法
- 4 初年度選抜結果レポート
果たして多面的・総合的評価ができたのか？
- 5 全学的な入学者選抜改革に繋げるための取り組み
- 6 今後の入学者選抜改革への提言

※1～2は明日の公開討論会と内容が概ね重複します。

3～5は当日にスライドのみにて説明するため、資料を添付していません。

TOKUSHIMA UNIVERSITY

※生物資源産業学部の概要に関する資料は当日配布

多面的・総合的評価を実施した経緯

- 高大接続改革実行プランの強い方向性
- 新設学部の特長により、従来の選抜方法に縛られない
- 大学教育改革と入学者選抜改革の一体化を実現

具体的に言うと…

「起業マインドもった人材の育成」の観点から、
知識評価への傾倒では、本学部の求める人物像に合致しない。
主体性・多様性・協働性の評価により、潜在能力のある学生を発掘。

全選抜区分で多面的・総合的評価を実施

APの構造として何が必要か？

APに盛り込むべきポイント

- 1 各大学の強み、特色や社会的な役割を踏まえつつ、大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。→後述①
- 2 入学者に求める能力は何か。→後述②
- 3 入学者選抜において、高等学校までに培ってきたどのような力を、どのように評価するのか。（どのような要素に比重を置くのか、どのような評価方法を活用するのかなど）→後述③④⑤⑥

文部科学省 大学入試室 (2015)、「現行の大学のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に関する資料」より
※生物資源産業学部AP策定後に公表されたもの

APと入学者選抜方法の設計①

各大学の強み、特色や社会的な役割を踏まえつつ、
大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。

- 学部統一APの策定
- ★CP, DPを軸にAPの全体像を示す

生物資源産業学部では、バイオテクノロジーを応用した生物資源の生産、医薬、食品としての有効利用に関連する幅広い知識、国際的に通用する専門性、バイオ産業創出に必要な起業マインドを持った人材の育成を目的としています。そのため、生物資源産業学部では、次のような人物を求めています。

…生物資源産業学部でどのような人物を育成するか？ を簡潔に

どちらかと言うとDPに近い内容

APと入学者選抜方法の設計② 入学者に求める能力は何か。

●求める人物像（6観点）の策定 ★学力の3要素を網羅



求める人物像	定義
関心・意欲・態度	バイオテクノロジー、生命、医療、食料、農業、環境に強い関心と学びに対する意欲があり、自分で明確な目標を持っている人
探究力	自分が関心を持ったことを深く掘り下げようとする人
表現力	自分が伝えたいことを相手に表現できる人
知識・教養	本学部の専門分野を学ぶために、高等学校で身につける文科系・理科系にわたる基礎的な知識・教養をもつ人
思考・判断力	今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人
協働性	問題解決のために、国籍や世代、考え方にとらわれないことなく、対等の立場で協力できる人

※上記は平成28年度入試向けの内容です。現在、平成29年度入試向けに高等学校等で修得すべき具体的な内容（教科・科目等）の明示など、改良を進めることを検討中。

参考：求める人物像「探究力」とは？

自分が関心をもったことを深く掘り下げようとする人

具体的に、例として…

- 自分の関心に対する具体性をもつ
→あれがしたい、これがしたいだけでは通用しない
★学びの設計書で評価
- 生物資源産業界で抱える諸問題の課題解決策を見極める
→正解のない問いに対する考え方
★総合問題で評価
- 徳島大学理念への理解 etc.

APと入学者選抜方法の設計③ 入学者選抜において、高等学校までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか。（どのような要素に比重を置くのか、どのような評価方法を活用するのかなど）

●APと入学者選抜方法を完全に連動化 ★AP策定の礎

横軸：重点評価項目＝求める人物像（AP）

縦軸：選抜方法 多面的・総合的評価	学力の3要素を網羅					
	関心・意欲・態度	探究力	表現力	知識・教養	思考・判断力	協働性
入学者選抜方法						
(センター試験)				○	○	
総合問題		○	○		○	
集団討論			○		○	○
集団面接	○		○			
個人面接 (口頭試問含む)	○			○		
調査書	○					○
志望動機書	○		○			
学びの設計書		○	○			

丁寧な入試＝1つの選抜方法で6観点全ての評価は無理が生じる、バランスの担保

※上記は平成28年度入試向けの内容です。平成29年度入試向けの内容は入学者選抜要項等で確認してください。

APと入学者選抜方法の設計④

入学者選抜において、高等学校までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか。(どのような要素に比重を置くのか、どのような評価方法を活用するのかなど)

●入学者選抜の基本方針策定 ★設計③の明文化とわかりやすい呼称

入学者選抜の基本方針

一般入試(前期日程) 「確かな学力」重視型

大学入試センター試験で「思考・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験では「思考・判断力」「表現力」「関心・意欲・態度」「探究力」を評価します。知識のみならず、学ぶ意欲や自分で課題を発見し、主体的に判断・行動する資質(確かな学力)をもつ人を総合的に選抜します。

一般入試(後期日程) 知識・思考力重視型

大学入試センター試験で「思考・判断力」「知識・教養」を重点的に評価し、個別試験では「思考・判断力」「探究力」「表現力」を評価します。より深い知識とともに、思考を巡らせて表現できる人を総合的に選抜します。

推薦入試Ⅰ(大学入試センター試験を課さない) 地方創生型

個別試験で「関心・意欲・態度」「表現力」を重点的に評価し、「協働力」「探究力」「思考・判断力」「知識・教養」を合わせて総合的に評価します。地方創生型入試は、地域産業界と結びつきの強い専門教育を行っている学科を対象とし、地方創生に意欲をもつ学生の受入を目的としています(地域枠あり)。大学入試センター試験は課さず、2段階にわたる個別試験で選抜します。

※地域枠は徳島県からの強い要請(本学が主体となっており、設定したものではありません)

推薦入試Ⅱ(大学入試センター試験を課す) 主体性・表現力重視型*学修変更

3教科の大学入試センター試験でより深い「思考・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階にわたって「関心・意欲・態度」「表現力」を重点的に評価し、「協働力」「探究力」「思考・判断力」を合わせて評価します。高等学校段階における多様な能力、関心等を重視し、それを表現できる人を総合的に選抜します。

※上記は平成28年度入試向けの内容です。平成29年度入試向けの内容は入学者選抜要項等で確認してください。

APと入学者選抜方法の設計⑤

入学者選抜において、高等学校までに培ってきたどのような能力を、どのように評価するのか。(どのような要素に比重を置くのか、どのような評価方法を活用するのかなど)

●入学者選抜方法における選抜内容 ★具体内容の公表は、「公正な評価」という観点からは必要不可欠

入学者選抜方法	選抜区分	選抜内容
総合問題	一般入試(前期) 一般入試(後期)	日本語で書かれた文章や図表等により、下記の力を問う記述・論述式の出題を行う。 ①化学(化基・化)に関する基礎学力とそれに関連した数学的視点を用いた思考・判断力 ②現代の社会における諸問題(バイオテクノロジー、食料、農業等で抱える問題)への深い関心と、自らの考えを表現する力。
集団討議	推薦Ⅰ 推薦Ⅱ	概ね3名~6名を1グループとし、複数の評価担当者による集団討議を行う。試験準備室で、テーマの提示(バイオテクノロジー、食料、農業関連)・説明ののち、15分間で自分の見解のまとめ(所定の記述用紙の記入と提出)を行う。試験室で最大20分間の討議を行う(終了5分前よりまとめ)。討議の進行役は評価担当者が行い、発言は原則として挙手制によって実施する。
集団面接	一般入試(前期) 推薦Ⅱ	概ね3名~6名を1グループとし、複数の面接担当者による集団面接を行う。志望動機・志望理由を中心に面接を約20分~30分間で行う。提出書類等の確認をする場合があり、発言は原則として順番制によって実施する。 ※一般入試(前期)では、集団面接開始15分前に試験準備室で現代の社会における諸問題(バイオテクノロジー、食料、農業等で抱える問題)に関するテーマを提示し、その考察を集団面接で簡潔に述べてもらう。
個人面接(口頭試問含む)	推薦Ⅰ	複数の面接担当者による個人面接を行う。志望動機・志望理由を中心に面接を10分~15分で行う。提出書類等の確認をする場合がある。また、高校の基礎学力(「化学基礎」)を確認するため、口頭試問を行う。
調査書	推薦Ⅰ 推薦Ⅱ	調査書では高等学校での生活状況(特別活動・指導上の参考となる諸事項等)を重点的に評価し、学習の記録を参考とする。なお、資格・検定試験の成績等のほか、プロジェクト活動やボランティア活動の実績、海外留学等の多様な経験がある場合は、集団面接と個人面接(口頭試問含む)においても参考資料とするため、具体的に記入しておくこと。
志望動機書	推薦Ⅰ 推薦Ⅱ	当大学・学部への志望動機についてこれまでの学生生活等の状況を踏まえて、300字~400字で簡潔に作成して提出する。 ※志望動機書は「今まで」、学びの設計書は「これから」という視点を中心に作成
学びの設計書	推薦Ⅰ 推薦Ⅱ	大学・社会人までを繋ぐ設計書を作成する。自分がこれから学びたい分野の理由を含めて、300字~400字で簡潔に作成して提出する。

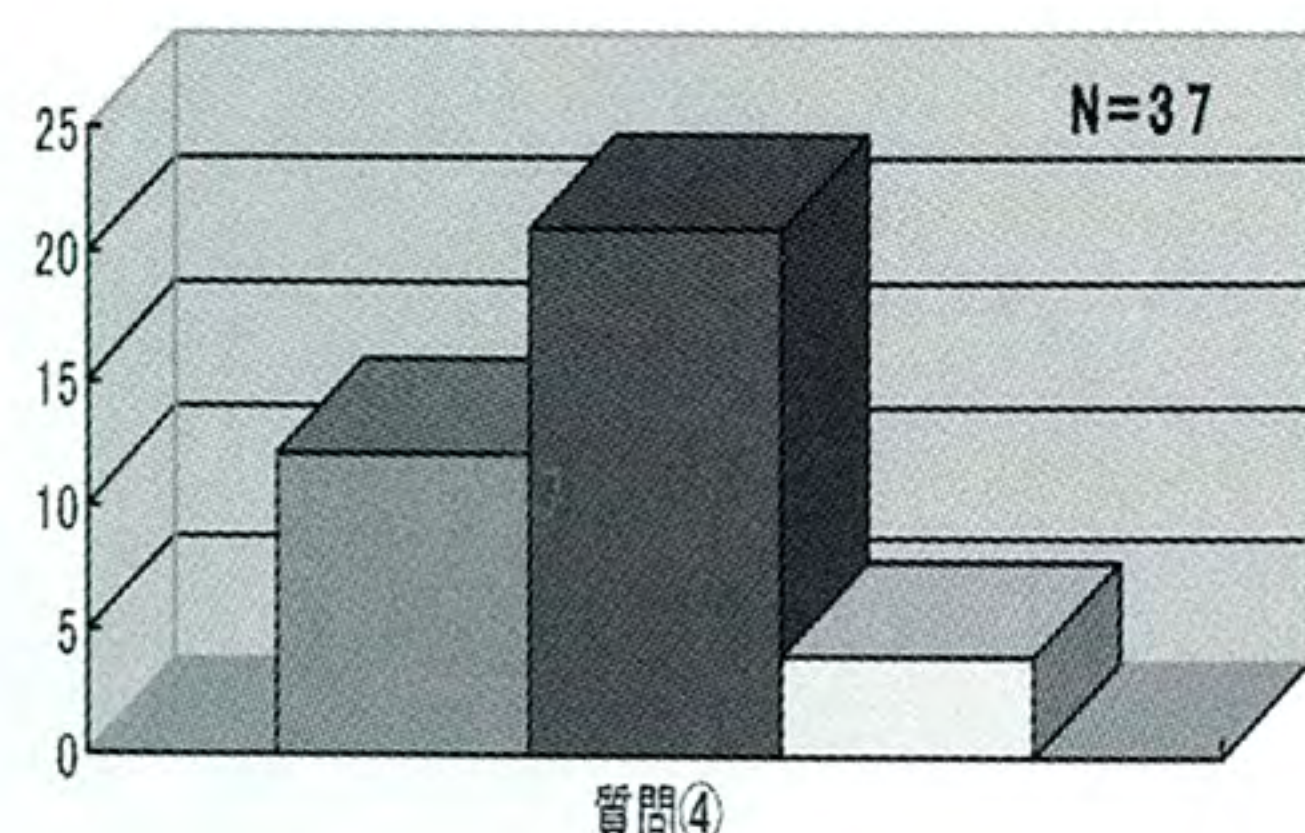
※上記は平成28年度入試向けの内容です。平成29年度入試向けの内容は入学者選抜要項等で確認してください(対策そのものに偏執されて、本来の評価が損なわれる懸念から、差し支えない範囲において公開情報を狭める予定)

参考：総合問題の反応

平成27年3月6日(金)開催
徳島県内高等学校教員対象
徳島大学新設・改組学部説明会 アンケート

※サンプル問題の公表を当日告知してある前提

Q. 生物資源産業学部的一般入試(前期)(後期)において総合問題を課すことについて



■ 賛同できる
■ どちらでもない
□ 賛同できない

「総合問題」サンプル問題(第3問)より

生物資源産業学部「総合問題」【サンプル問題】(その3)

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1~3)に答えよ。

右図に食料供給量を示した。生産額ベース食料自給率とは、食料の国内生産額を食料の国内消費額で割った百分率であり、カローラベースの食料自給率は1人1日あたりの国内供給熱量を1人1日の供給熱量で割った百分率である。主食用穀物自給率は、重量ベースで、主食用穀物(米、小麦、大豆、雑穀のうち利用可能なもの)の国内消費性向量に対する国内生産量の割合を示したものである。穀物自給率は、穀物の消費量に占める国内生産量の比率である。飼料自給率とは、畜産物に仕向けられる飼料のうち、国内でどの程度賅われているかを示す百分率である。参考：平成23年度の先進国カローラベースの食料自給率、アメリカ117%、ドイツ92%、イギリス72%、イタリア61%である。

注) 国内消費性向量「国内生産額+輸入額-輸出額」で計算した値。畜産物および加工食品については、輸入原料および輸入食品原料の量を国内生産額から控除して算出している。

- 食料供給量から分析できる日本の食料供給の状況について、2007年度で概説せよ。
- 生産額ベース食料自給率とカローラベース食料自給率が減少したこと、その原因が大きくなった理由について、2007年度で概説せよ。
- カローラベース食料自給率を向上させるための対策について、あなたの意見を2007年度でまとめよ。



APと入学者選抜方法の設計⑥

11
入学者選抜において、高等学校までに培ってきたどのような力を、どのように評価するのか。（どのような要素に比重を置くのか、どのような評価方法を活用するのかなど）

●入学者選抜概要 ★4つの類型できめ細かな入学者選抜を実施

「確かな学力」重視型【50名】
＜一般入試前期＞

選抜方法	配点（1000点）
センター試験（5教科）	500点
総合問題	300点
集団面接	200点

知識・思考力重視型【20名】
＜一般入試後期＞

選抜方法	配点（1000点）
センター試験（5教科）	700点
総合問題	300点

※一般入試は調査書参考

地方創生型（専門高校枠）【一般枠4名、地域枠4名】
＜推薦入試Ⅰ＞

選抜方法	配点（1000点）
調査書	100点
志望動機書	150点
学びの設計書	150点
集団討論	300点
個人面接（口頭試問有）	300点

主体性・表現力重視型^{※学称変更}【22名】
＜推薦入試Ⅱ＞

選抜方法	配点（1000点）
センター試験（3教科）	300点
調査書	100点
志望動機書	100点
学びの設計書	100点
集団討論	200点
集団面接	200点

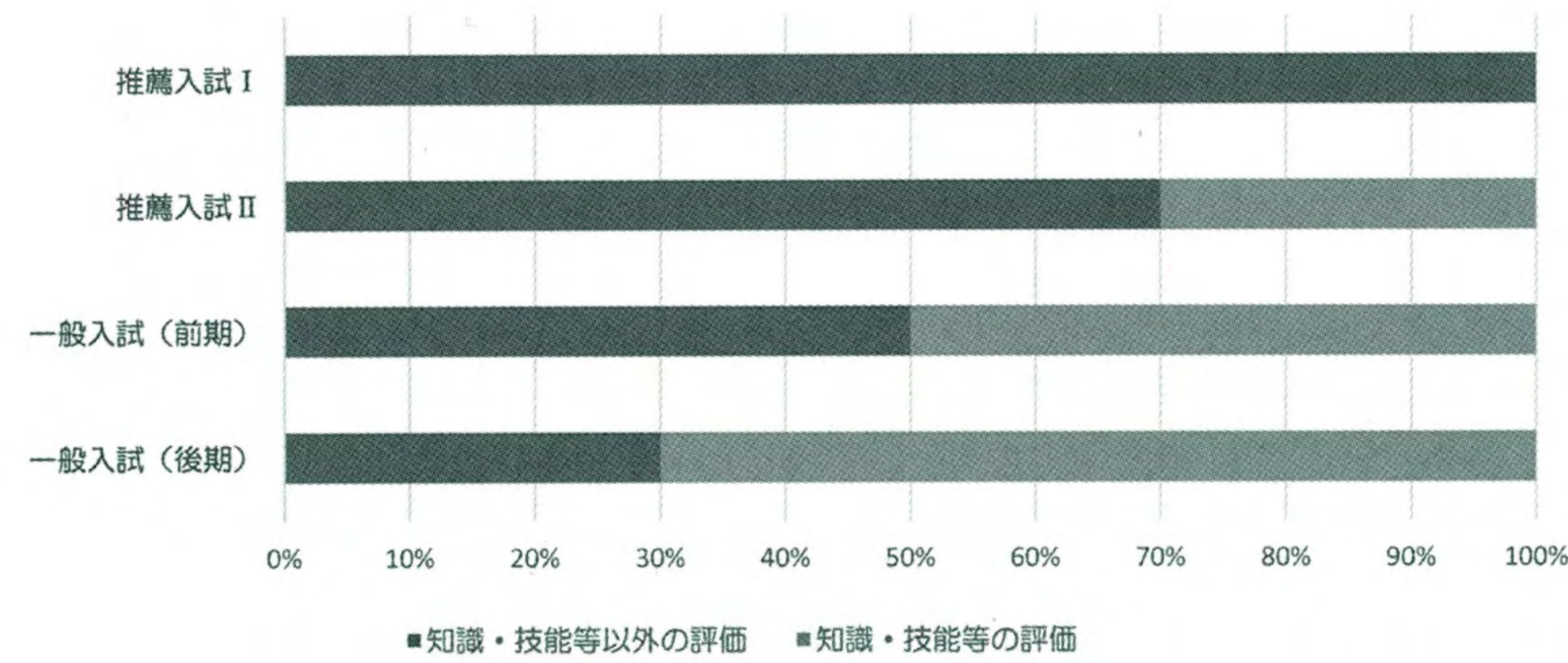
※上記は平成28年度入試向けの内容です。平成29年度入試向けの内容は入学者選抜要項等で確認してください。

APと入学者選抜方法の設計⑥

12

●受験者の多様な能力にかかるウエイトのイメージ

★配点はすべて1000点満点 …選抜検証を行いやすい



※推薦入試Ⅰは、個人面接で口頭試問を実施

13
3～5は当日にスライドのみにて説明するため、資料を添付していません。

今後の入学者選抜改革（個別選抜改革）への提言

…個人的意見を含めて

- 入学者選抜改革はAPの見直し，検証から着手
- アドミッション組織の充実は必要不可欠（特に追跡研究）
- 一般入試での「多面的・総合的評価」実施はどこまで？
- 新テスト移行後の定員超過，未充足の懸念
- グローバル対応の推進

ご清聴ありがとうございました。

植野 美彦

ueno.yoshihiko@tokushima-u.ac.jp



国立大学アドミッションセンター連絡会議会則

制定 平成 15 年 6 月 4 日
最終改正 平成 28 年 6 月 1 日

(名 称)

第 1 条 本会は国立大学アドミッションセンター連絡会議と称する。

(目 的)

第 2 条 本会は、高等学校・大学間の接続関係の改善及び加盟機関における入学者選抜等の業務改善に関する研究協議を行い、あわせて加盟機関相互の交流促進を図ることを目的とする。

(事 業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

(構成員)

第 4 条 本会は、国立大学のアドミッションセンター、及び国立大学において高等学校・大学間の接続関係の改善に関する研究及び実践に携わる機関によって構成する。

2 本会の加盟機関は、別表に掲げる機関とする。

3 新たに入会しようとする国立大学の機関は、総会の承認を得るものとする。

(役 員)

第 5 条 本会に以下の役員を置く。

一 会 長 1 名

二 事務局長 1 名

三 運営委員 各加盟機関からの代表 1 名

四 幹 事 運営委員の中から会長の委嘱 6 名

2 会長及び事務局長は総会において選出する。任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の会長及び事務局長の任期は、前任者の残任期間とする。

3 役員は加盟機関の代表をもって、これにあてる。

(役員の仕事)

第 6 条 会長は、総会を招集し、その議長となる。

2 会長が欠けたときは、事務局長がその職務を代行する。

3 事務局長は、本会の運営に必要な事務全般を行う。

4 運営委員は、本会の運営に携わる。

(総 会)

第 7 条 総会は、加盟機関の 3 分の 2 以上の出席がなければ開くことができない。

2 総会の議事は、出席した加盟機関の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(加盟機関以外の出席)

第8条 会長が必要と認めたときは、加盟機関以外の者を総会に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務局)

第9条 本会に、本会の事務を処理するための事務局を置く。

2 事務局は、事務局長の所属する機関に置く。

(雑 則)

第10条 この会則に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は本会が別に定める。

附 則

この会則は、平成15年6月4日から施行する。

附 則

この会則は、平成17年6月1日から施行する。

附 則

この会則は、平成18年5月31日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年5月29日から施行する。

附 則

この会則は、平成20年5月25日から施行する。

附 則

この会則は、平成21年5月19日から施行する。

附 則

この会則は、平成22年6月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成23年5月24日から施行する。

附 則

この会則は、平成25年6月5日から施行する。

附 則

この会則は、平成28年6月1日から施行する。

別表（第4条第2項関係）

北海道大学アドミッションセンター
旭川医科大学入学センター
岩手大学入試委員会
東北大学入試センター
山形大学エンロールメント・マネジメント部
茨城大学アドミッションセンター
筑波大学アドミッションセンター
横浜国立大学高大接続・全学教育推進センター
富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター
福井大学アドミッションセンター
静岡大学全学入試センター
京都工芸繊維大学アドミッションセンター
鳥取大学大学教育支援機構入学センター
岡山大学アドミッションセンター
広島大学入学センター
山口大学アドミッションセンター
徳島大学総合教育センター
香川大学アドミッションセンター
愛媛大学アドミッションセンター
高知大学アドミッションセンター
九州大学アドミッションセンター
佐賀大学アドミッションセンター
長崎大学大学教育イノベーションセンター
鹿児島大学アドミッションセンター
鹿屋体育大学アドミッションセンター
琉球大学グローバル教育支援機構アドミッション部門

国立大学アドミッションセンター連絡会議役員〔平成28年度〕

会 長：田原 誠（岡山大学 副学長 アドミッションセンター長）

事務局長：船橋 伸一（富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター副センター長）

運営委員：下表

幹事	大学名	氏名	役職名
○	北海道大学	鈴木 誠	高等教育推進機構高等教育研究部門教授
	旭川医科大学	坂本 尚志	副入学センター長
	岩手大学	丸山 仁	入試委員会委員長
○	東北大学	石井 光夫	高度教養教育・学生支援機構 高等教育開発部門入試開発室教授
	山形大学	鈴木 達哉	エンロールメント・マネジメント部講師
	茨城大学	泉岡 明	アドミッションセンター長
○	筑波大学	島田 康行	アドミッションセンター長
	横浜国立大学	海老原 修	高大接続・全学教育推進センター高大接続部門長
○	富山大学	船橋 伸一	教育・学生支援機構アドミッションセンター 副センター長
	福井大学	大久保 貢	アドミッションセンター教授
	静岡大学	雨森 聡	全学入試センター准教授
	京都工芸繊維大学	内村 浩	アドミッションセンター担当教授
	鳥取大学	森川 修	入学センター准教授
○	岡山大学	田中 克己	アドミッションセンター教授
	広島大学	杉原 敏彦	入学センター長
	山口大学	岩部 浩三	アドミッションセンター長
	徳島大学	植野 美彦	総合教育センターアドミッション部門長
	香川大学	真鍋 芳樹	アドミッションセンター副センター長
	愛媛大学	深田 昭三	アドミッションセンター長
	高知大学	奥田 一雄	アドミッションセンター長
○	九州大学	佐藤 喜一	基幹教育院教授
	佐賀大学	西郡 大	アドミッションセンター副センター長
	長崎大学	星野 由雅	大学教育イノベーションセンター副センター長
	鹿児島大学	竹内 正興	アドミッションセンター准教授
	鹿屋体育大学	前阪 茂樹	アドミッションセンター長
	琉球大学	吉田 安規良	グローバル教育支援機構アドミッション部門長

編集後記

心で見なくちゃ、
ものごとはよく見えないってことさ。
かんじんなことは、
目に見えないんだよ。

これは『星の王子さま』の著者であるアントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの言葉です。

私たちが関わる大学入試は、まさにこの目に見えない受験生の能力を測るものに他なりません。その能力を測るため、調査書、学力検査、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、活動報告書、志望理由書、学修計画書、各種資格取得の有無などを用いて、アドミッションポリシーに沿った学生を選抜しているのです。ただし、これらには一長一短があり、選択科目による得点のばらつき、面接員による相性の差、調査書の信頼性の担保といった問題は尽きません。

実のところ、今回の大学入試改革に対して、私は当初、懐疑的な姿勢でした。それは、これまで先駆的なAO入試を行ってきた大学から、「受験生の様々な能力を測るため、色々なことをやってきたけど、結局のところ学力試験結果と一致するんだよ。」という声を多数聞いてきたためでした。結果が同じなら、苦労して特別な入試を行う必要はない、という考えが頭から離れなかったのです。それなら学力試験主体に、より優秀な学生を確保すればよい、と考え、所属大学では、試験科目や配点、出題内容をどう変えるかにのみ注目してきました。その結果、志願倍率が50倍を超える学科が現れたり、過去最高の志願者数を更新したり、地方試験会場で志願者が1,000人を大きく越えて受け入れができなくなるなど、一定の成功をおさめることができました。しかし、志願者数が増えればそれでいいという訳でないことに加え、大学入試が変わらなければ、高校教育は変わりません。暗記一辺倒が悪いとはいえませんが、就職活動の時のように、もっと違った能力を見るべきだという考えを、全否定できないのもまた事実だと思います。こうしたなか、アドミッション部門は、入学者選抜の在り方の評価・分析に加え、他大学との意見交換などを通して、大学入試改革を牽引する役割を果たすことが求められているのではないのでしょうか。

国立大学アドミッションセンター連絡会議第14回総会は、立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催され、徳島大学と鹿児島大学が新たに加盟されました。今現在も、加盟申請は複数大学から届いています。連絡会議は、今後のますますの発展のため、加盟大学の皆様のご協力を得ながら、種々の懸案事項の検討を進めてまいります。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月 事務局 船橋伸一（富山大学）

国立大学アドミッションセンター連絡会議ニュース 第14号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議

編集：富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター（連絡会議事務局）

〒930-8555 富山市五福3190 富山大学学務部入試課

nyusi-2t@adm.u-toyama.ac.jp



国立大学アドミッションセンター
連絡会議ニュース 第14号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議
編集：富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター（連絡会議事務局）
〒930-8555 富山市五福 3190 富山大学 学務部入試課
nyusi-2t@adm.u-toyama.ac.jp